第 4 回：茶道文化の発展

会長　田中 仙堂

ある人から、「“日本茶芸には発展がない”と、中国人に指摘された」という話を聞きました。中国茶では茶芸が盛んで、茶芸を披露する機会が多くあるのですが、それと同じように、日本の茶道の点前が、中国内で実演される機会も増えてきています。“日本茶芸には発展がない”と発言した中国人に言わせると、中国国内で毎年開催される大会で日本の茶道の実演を見ると、“毎年同じ点前を披露しており、少しも変わらない”ために、“日本茶芸には発展がない”と感じたということです。

実演会で、毎年何らかの新しい技が披露されなければ、発展がないという発想は、茶の点前を体操競技に置きかえて考えてみると、“なるほど、そういう見方もあったか”、とうなずけました。しかし、日本人がその中国人と同じような見方をしないのは、茶の点前は単なる点茶技術のデモンストレーションに留まらない、と捉えているからだと再認識しました。

「茶道文化の発展」を捉える時、質的な発展と量的な発展の 2 つの物差しがあるでしょう。修業することで、自分自身を向上させる日本の茶道においては、質的な発展を計る物差しが前提となるのではないでしょうか。質的な側面で「茶道文化の発展に貢献する」ためには、何よりも、自身の内面的な充実感をもって、茶道に取り組むことが大切なのではないでしょうか。

平成 25 年 2 月発行　会報「えんじゅ 74 号」掲載